



市議会議員 砂田喜昭 67-4322



参議院議員 井上哲士

衆議院議員 笠井あきら

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

禁断転載 複写配布

8.18 集会

# 志賀原発の再稼働を許すな



開会あいさつする土井由三氏(中央)。その両脇には火爪弘子県議(右端)、小野清史氏(左端、呼びかけ人の一人)

原発をなくす県連絡会準備会と県平和運動センターです。オープニングは「富山タルク」のみなさんによる太鼓の演奏でした。

原発再稼働反対の1点で各界、各団体が統一行動

開会のあいさつは呼びかけ人を代表して土井由三氏、県平和運動センターと原発をなくす県連絡会準備会の統一行動としてオール富山で行われている意義を高く評価されました。

連帯のあいさつに社民党の又市征治参院議員、共産党の火爪弘子県議、党員副委員長が立ちました。

福島から避難してきた内田あき子さんは放射能の危険性を、声を詰まらせながら訴えました。

北陸電力へ申し入れ 同実行委員会では北陸電力本

社会の3項目を申し入れることにしています。

原発から撤退し 再生可能エネルギーへ

志賀原子力発電所1、2号機の永久停止と廃炉を英断し、原子力事業から撤退すること。当面水力発電、火力発電で電力を供給し、同時に再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、波力、地熱、バイオマス等)による電力供給体制に転換する。

断層の再調査は 第三者機関で

志賀原発1号機の直下を走るS1断層の再調査については、透明性、公正性を確保するため、公正な第三者機関に委ねること。また、調査資料を全面的に公開する。



オープニングに富山タルクによる勇壮な太鼓演奏



暑い中730人が参加

原子炉停止期間中も 万全の安全対策を

原子炉の停止期間中であつても地震対策をはじめ、想定されるすべての危機に對して万全の安全対策をとる。

## 地元ゆかりの国会議員4氏による「ふるさとトーク」 市内興法寺

### 笠井亮さん おおいに語る



4国会議員によるふるさとトーク(正面右から馳浩氏、笠井亮氏、山田俊男氏、柴田巧氏。左端は興法寺地区区長 = 8月15日)

寺出身、山田俊男参院議員(自民・比例、小矢部市出身)、柴田巧参院議員(みんなの党比例、小矢部市在住)の4氏です。司会は馳氏で、テーマは消費税増税と社会保障の問題、原発とエネルギー政策の問題、TPPと日本のあり方問題について約2時間、熱心に話し合われました。こつとした顔ぶれのトークショウは、全国でも例がないのではないのでしょうか。

「増税するならば、まず富裕層から」

消費税増税問題では、笠井さんが増税を決めたら打出の小槌を手にいれたとばかり、自民党が200兆円の公共事業、公明党が100兆円の公共事業を言い出したとチクリ、増税するならば富裕層に、アメリカ

「原発事故被害で地域社会が壊れる」

笠井さんは、原発事故の被害はいつ納まるともわからず、地域的にも限定されず、地域社会が壊れてしまつて、原発ゼロを主張し、再生可能エネルギー切り替えるべきだと述べました。

TPPと国のあり方 「財界中心、アメリカいいなり政治にメスを」

TPPについて笠井さんは、「きつぱり反対が大事だ。いろんな条件をつけてくれが認められないならば反対と

言つては弱いまして交渉に参加してから利益を考えると、これは不可能だと述べました。

山田俊男参院議員が、昨年11月でTPP反対に政治生命をかけて言つたが、ますますその決意が固まった。1月の自民党大会で、経団連の米倉会長があいさつでTPP推進を言つたので、TPPを間違えるな時と場所をわきましろと発言したら、代議員が背後から手援してくれた。米倉会長は顔を真っ赤にして怒つた。と述べました。

最後に今後の希望をそれぞれの議員が述べる場面があり、笠井さんは、「3年前の政権交代にかけた国民の期待を民主党は裏切った。山田さんが経団連の話をされたが、やはり財界中心、アメリカいいなりの政治にメスを入れることが肝心だ。そういう政治を実現できるようにするために、共産党は連合政権の一翼を担えるように頑張りたい」と語りました。

訂正 先週号の事業系不燃ごみは59トンに訂正します。